

平成29年度 第3回 静岡市多文化共生懇話会 会議録

1 日 時 2017年12月20日(水)19:00～20:30

2 場 所 静岡市国際交流協会 1階 第2会議室

3 出席者 多文化共生懇話会委員12名  
小林 タバサ、全 高香、スリヤ佐野 ヨハンナ 雪恵、  
高畑 幸、福井 ユミ、ホリウチ アリッセ イズミ、  
楊 移苗、吉野 恵津子、李 栄元、レ ティ マイ ゴック

事務局、静岡市国際交流協会

4 傍聴者 1名

5 次第 (1)開会

(2)意見交換

議題: 静岡市多文化共生推進計画「ともに学ぶ」「ともに創る」に関わる事業

について

(3)閉会

6 意見交換・発表内容

○ホリウチ会長

それでは時間となりましたので、それぞれの班で出した意見を、全体で共有したいと思います。1班から発表してください。

○小林委員

1班です。ハラルの食事を増やしてほしいと思います。外国語表示をもう少し正確に。ネイティブチェックや文法チェック、誤表記など質的に改善させていけたらいい。

○ゴック委員

⑤外国人家庭への支援については、先輩や後輩との交流会があったらいいと思います。中学・高校の進学情報の提供や、外国人の親にどうすれば日本でこどもが健全に育つか、日本の文化や子育ての考え方など、日本ならではのことを伝える説明会があるといい。「相談」だと日本語ができないことで恥ずかしがって相談しない。例えばベトナムでは子どもを守ろうとするが、日本では自立させようと育てる。そういう違いも説明があればいい

な、と思います。

小・中学校のクラスで、外国や外国人を理解する機会や活動があると良いと思います。特に小さな子や小学生は、外国人がよくわからない。肌の色や、自然に日本語が話せないことに対し、「僕たちと違う」からいじめたい、という考えがあるそうです。クラスで外国人を受け入れる、理解する機会を設け、いろいろな違いを共有することは、子供のいい勉強環境になると思います。以上です。

#### ○宋委員

学校の食堂でハラール料理がなくても、せめて使っている食材や食べてはいけないものの表記をしてほしいです。

外国人住民の社会貢献活動への支援とありますが、ボランティアの機会を増やしてほしいです。活動の機会はあるけれど、知られていない。私も人材バンク、通訳のネットワークに登録していますが、知らない人が結構多い。もっと多くの人にこのネットワークが伝わってほしい。

#### ○小林委員

人材バンクを各大学にアピールして、深夜のバイトやコンビニのバイトもいければ、昼間や週末に地域のイベントに外国人も参加してもらって、地域に密着して、地域社会とのつながりを強化できるのではないかと、という話になりました。

以前も出ましたが、防災訓練のお知らせを外国語で発信する、という意見が出ました。以上です。

#### ○ホリウチ会長

ありがとうございました。では2班お願いします。

#### ○スリヤ佐野委員

「ともに学ぶ」からいきます。まず外国人住民への学習支援に関してですが、ホリウチ会長から、63の日本語講座は今後続けられるのか、はっきり知りたい。64の学習支援団体への活動助成金は今後続けられるのか、を知りたいです。

#### ○福井委員

「実施した」とか「活動を助成した」とか書いてありますが、今後どうなっていくんだろう、というホリウチ会長と同様な疑問があったので載せました。

#### ○スリヤ佐野委員

67の帰国子女の日本語指導担当者会の実施もいいですが、帰国子女を日本語の学校教育に完全に吸収させるのではなく、逆にバイリンガルとして育てる教育や教育機関の

整備・支援を提案したい。せっかく外国語を覚えて帰ってきた日本人も外国語・英語を忘れてしまいます。また外国からやってきた子供たちも日本語の教育に吸収されて、外国語を忘れてしまう。すぐもったいない。小学校でも3年生から英語教育が始まるので、学校の中に外国語を取り入れることを考えてほしい。

そして、71の英語・中国語版「小中学校預り金（諸費）のお知らせ」を終了したということですが、どういう経緯でやめたのかを詳しく知りたいです。

次に77~78の外国語指導助手についてです。教育現場での英語教育をさらに活性化させるために、資格を持たない英語スピーカーを活用する必要があると思います。学校の中でもっと多くの英語教師が必要だと思います。英語教育を手伝うにはいつも資格という壁があるので、他の枠でできないかなあ、ということです。例えば幼稚園から中学校まで本の読み聞かせがありますが、保護者や地域の方に参加していただくとか。

それから今につながりますが、85の御幸町図書館1館でのネイティブスピーカーによる読み聞かせを他の図書館に広げたり、学校でも外国語の読み聞かせを実施したらいかがでしょうか。

84の静岡音楽館自主事業について、世界の楽器や文化を紹介する音楽・コンサートとありますが、市がやっているのかどうかも分からずに提案していますが、文化財団がやっているのかな？ 私事で恐縮ですが、9年前から清水におりまして、フィンランド国際交流のイベントをいろいろやっています。2012年東北サポート、2013年、2015年、2017年は先週、独立100周年記念のツアーをやりまして、フィンランドの文化を紹介しています。提案したいのは、静岡市はアメリカやフランス（姉妹都市）と交流がありますが、それをさらに他の地域にも、北欧やアジアの他の国にも広げていければ素晴らしいな、と思います。教育とか文化とかいろいろな面で協力できると思います。2017年~2019年にフィンランドは日本と国交100周年があり、いろいろなところでイベントがありますので静岡市もそれに便乗できれば色々なメリットがあると思います。100周年記念ミュージカルのプログラムの中の二つ、「森」、「オーロラのもとで」は2018年、2019年におそらく浜松市、飯能市、滋賀県が共催になると思います。そういう可能性もありますので、静岡市でもできれば素晴らしいな、と思います。市長の奥様もフィンランドが好きということなので、きっとほかの国も好きだと思いますけど、よろしく願います。

## ○福井委員

「ともに創る」について、98~100までをまとめて発表します。私は静岡に住んでもうすぐ20年になります。同じような定住者がたくさん静岡市にもいるので、地域に密着していろいろな活動をしていけたらいいなと、思っています。

外国人住民の自治会や町内会への参加は進んでいません。参加してない人たちの方が多い。町内会がなにか、という理解が低く、入ることのメリットがわかりづらい。外国人も増えてきたので、何とかしたい、と思っている町内会が増えてきた。私の町内ではいろいろな国の人とお茶会をやったり、子ども会でその国を紹介したり、その国の歌を歌っ

たり。小さいことを積み重ねた結果、防災訓練にも結構外国人が参加してくれました。避難所を歩いて確認したり、避難所のなかですることの説明や、非常食をみんなで食べました。避難時の食事は町内会側が用意した外国人向けしそうな缶詰より、赤十字が作った袋でツナを入れて炊いたご飯の方が実際に外国人も「おいしい」、と好みが町内会側が考えていたものと違った。実際にやってみなければわからないことも多く、避難所に置く食事の参考になりました。町内会、どうすればもっとみんなに参加してもらえるのかな、と思っています。

ホリウチ会長の町内会は200人規模で盛大に防災訓練&バーベキューをやっているそうです。そういうところもだんだん出てきているので、そういうのをみんなに知ってもらって、成功例をどんどん作ってもらえるように、PRをどうできるかを考えていきたい。次に、外国人住民を支える関係機関等との連携についてです。106~107の生活相談や日本語ボランティアについて。県や市が色々な企業に「日本語を学ぶ機会を」と言っているが、企業は閉鎖的で、外国から働きに来ている人たちにあまり学ぶ機会を与えていない。実際には仕事が終わった後の時間に、吉野先生たちのようなボランティアが日本語を教えつつ、生活面全般での細かい相談にのっている。ボランティアをひろげられたらいいと思いますが、実際には難しい。上手に関係機関とつなげられて、ボランティアを上手に活用できたらいいな、と思います。

○ホリウチ会長

すいません、時間がないのであと1、2分をお願いします。

○福井委員

はい。推進計画の表にはありませんが、私自身の素朴な疑問です。外国人が静岡市に引っ越してきて、生活ガイドはどのくらい配られていて、どのくらい活用できるもののかな、と。

○事務局 / 望月

転入してきた方全員にお渡ししています。5言語対応ですが、そのほかの言語に関してはSAMEに相談をしてください、とお願いをしています。

○福井委員

疑問に思ったのは、病院で医療通訳をやっていると、いろんな相談・問題・学校のお知らせまで何から何まで持ってきて、病院の待時間にひっきりなしに質問したり、「替わりに書いてくれる？」と言われてたり。通訳は私一人だけで間に合わないの、最近はお手伝いができず、お断りしている。「SAMEに行ってみたら？」というと、SAMEを知らない人がまだまだいる。SAMEも長年こんなに一生懸命活動しているのに、どうすればみんなに知ってもらえるのか。どのように何をアピールしたらよいか、と思います。という

わけで「ともに創る」について話しをさせてもらいました。

○ホリウチ会長

ありがとうございました。すいません、3班の方、時間がないので・・・

○吉野委員

3班です。時間がないので簡潔に。「ともに学ぶ」の④の外国人住民への学習支援については、最終的に日本語を教えるボランティアを行政が支援することと、それを継続、育成すること、という意見が出ました。他にも意見はありましたが、それが最終的にまとめになります。1, 2班でも同じような意見が出ていましたので省略します。

⑤の外国人家庭への支援については、学校に行っていない子がまだいるので、その子達の対処を少し考えなければならないのではないかと。

⑥の多文化共生意識については、いじめの問題が小さいころからあるので、親・教師を含め全体的に多文化共生の理解を促進するために、行政が取り組んで各幼稚園や小学校で人権教育をしてほしい。

○楊委員

「ともに創る」の⑦外国人住民の地域への参加についてですが、町内会については、町内会で催している「ふれあいサロン」などへみんなが参加できればいいかな、と。

⑨の国際交流協会の機能充実について。SAMEは空き部屋がありますよね。常にひとつの部屋を借りて、日本語を教えるボランティアを常駐させ、無料で日本語を教えることは可能ですか？

最後に⑩外国人住民の社会貢献活動への支援について。通訳ボランティアの機会を増やしてほしい。

その他。外国人の情報、悩みを静岡気分みたいなもので常にみなさんに知らせたい。大事なことだと思います。そうしないと日本人は、外国人がどういう気持ちで日本で生きているのかが分からないかな、と思います。以上です。

○ホリウチ会長

みなさん、有意義なご意見をありがとうございました。